

平成21年8月28日
 統計部公表

平成21年産水稻の8月15日現在における作柄概況 —— 作柄は「平年並み」の見込み —— (栃木県)

【調査結果の概要】

栃木県の平成21年産水稻の8月15日現在における作柄は、「平年並み」が見込まれます。

これは、穂数がやや少ないものの、1穂当たりもみ数は平年並みが見込まれることから、全もみ数も平年並みが見込まれ、登熟も平年並みが見込まれるためです。

地帯別の作柄は、北部、中部及び南部ともに「平年並み」が見込まれます。

図1 作柄表示地帯



表1 平成21年産水稻作柄表示地帯の作柄概況 (8月15日現在)

区分	作柄の良否 ()	穂数の多少 平	1穂当たり もみ数の多少 年 比	全もみ数 の多少 較	登熟の良否 ()
県平均	平年並み	やや少ない	平年並み	平年並み	平年並み
北部	平年並み	やや少ない	平年並み	平年並み	平年並み
中部	平年並み	やや少ない	やや多い	平年並み	平年並み
南部	平年並み	やや少ない	平年並み	平年並み	平年並み

注：1 本表で用いる作柄の良否の表示区分は、「良」が作況指数106以上、「やや良」が102～105、「平年並み」が99～101、「やや不良」が95～98、「不良」が91～94、「著しい不良」が90以下です。

2 本表で「穂数の多少」、「1穂当たりもみ数の多少」、「全もみ数の多少」、「登熟の良否」に用いた表示区分は、「多い(良)」が対平年比106%以上、「やや多い(やや良)」が同102～105%、「平年並み」が同99～101%、「やや少ない(やや不良)」が同95～98%、「少ない(不良)」が同94%以下です。

この統計調査結果で使用している統計表は、以下のアドレスからデータとしてご利用いただけます。

【http://www.maff.go.jp/kanto/to_jyo/tochigi/2009data/09-21-01xls】

【関連するデータ、情報】

◎ 水稻調査結果の利活用

- ・ 「主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律」に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための基礎資料
- ・ 集荷円滑化対策において、過剰米数量算出の必要性の判断及び豊作時の過剰米数量算出のための基礎資料
- ・ 「食料・農業・農村基本計画」における生産努力目標の策定及び達成状況の確認のための基礎資料
- ・ 農業災害補償法に基づく農作物共済事業において共済基準収穫量算定のための基礎資料

◎関連データ

累年表

水陸稲（子実用）の年次別推移（栃木県）

年 産	水 陸 稲 計		水		稲		
	作付面積	収穫量	作付面積	10a当たり 収 量	収穫量	作況指数	10 a 当たり 平年収量
	ha	t	ha	kg	t		kg
昭. 53	98 300	398 400	93 600	421	394 100	103	408
54	96 700	403 200	91 900	430	395 200	104	412
55	91 800	364 800	87 000	407	354 100	98	417
56	87 900	339 000	83 000	397	329 500	95	420
57	87 600	312 700	82 600	367	303 100	87	420
58	88 400	334 900	83 400	389	324 400	93	420
59	90 600	409 700	85 700	468	401 100	111	420
60	92 300	416 900	87 500	466	407 800	110	422
61	90 600	400 800	86 100	453	390 000	107	425
62	83 700	380 700	79 200	466	369 100	108	430
63	82 300	328 200	77 600	412	319 700	94	436
平. 元	81 600	357 300	77 400	450	348 300	103	439
2	80 700	395 600	76 900	505	388 300	114	443
3	79 300	382 400	76 300	491	374 600	109	450
4	81 100	390 400	78 500	491	385 400	107	457
5	82 200	308 200	80 000	380	304 000	81	467
6	87 300	448 500	85 100	522	444 200	112	467
7	83 600	417 900	81 300	508	413 000	108	469
8	77 600	404 900	75 900	531	403 000	112	474
9	77 300	410 600	75 900	536	406 800	111	484
10	70 800	324 800	69 400	463	321 300	93	496
11	70 600	361 600	69 400	517	358 800	102	508
12	70 100	381 300	69 000	548	378 100	106	517
13	68 100	364 000	67 200	539	362 200	104	517
14	67 500	364 400	66 600	544	362 300	104	523
15	66 100	318 700	65 300	485	316 700	92	528
16	69 300	392 900	68 600	570	391 000	107	531
17	69 000	375 200	68 200	547	373 100	102	535
18	67 500	340 900	66 700	508	338 800	94	539
19	68 000	360 700	67 200	534	358 800	99	539
20	64 200	349 100	63 500	547	347 300	101	539

資料：農林水産省統計部『作物統計』による。

【解 説】

1 北部・中部

田植期は、苗の生育がおおむね順調だったことから、平年に比べ1日ないし2日程度早まり、北部は5月3日、中部は5月6日となりました。

初期生育は、5月上旬以降、気温・日照時間ともにおおむね平年を上回って経過したことから活着はやや良かったものの、5月下旬以降、日照時間が平年を下回って経過したことから茎数はやや少なくなり、草丈は6月下旬からの天候の回復によりやや長くなりました。

出穂期は、日照時間が平年を下回って経過したものの、気温はおおむね平年を上回って経過したことから、平年並みないし1日程度早まり、北部は8月4日、中部は8月3日となりました。

穂数は、初期生育が抑制され茎数がやや少なくなったことから、平年に比べやや少なくなると見込まれます。

全もみ数は、7月から出穂期にかけての日照時間は平年を下回って経過したものの、気温はおおむね平年を上回って経過していることから、平年並みが見込まれます。

登熟は、出穂後8月上旬まで日照時間が平年を下回って経過したものの、その後回復傾向に推移したことや全もみ数が平年並みになると見込まれることから、平年並みが見込まれます。

以上のことから、作柄は、北部、中部ともに「平年並み」が見込まれます。

2 南 部

田植期は、早植栽培で苗の生育がおおむね順調だったことから早まり、普通植栽培は麦類の収穫が早まったことから、全体では、平年に比べ2日程度早まり5月28日となりました。

初期生育は、早植栽培で5月上旬以降、気温・日照時間ともにおおむね平年を上回って経過したことから、活着はやや良く、5月下旬以降日照時間が平年を下回って経過したことから、茎数はやや少なくなり、草丈は6月下旬からの天候の回復によりやや長くなりました。

普通植栽培は気温はおおむね平年を上回って経過したことから、草丈はやや長くなったものの、日照時間が全般的に平年を下回って経過したことから、茎数はやや少なくなると見込まれます。

出穂期は、日照時間が平年を下回って経過したものの、気温はおおむね平年を上回って経過したことから、平年に比べ2日程度早まり8月12日となりました。

穂数は、初期生育が抑制され茎数がやや少なくなったことから、平年に比べやや少なくなると見込まれます。

全もみ数は、7月から出穂期にかけての日照時間は平年を下回って経過したものの、気温はおおむね平年を上回って経過していることから、平年並みが見込まれます。

登熟は、早植栽培で出穂後8月上旬まで日照時間が平年を下回って経過したものの、その後回復傾向に推移したことや全もみ数が平年並みになると見込まれることから、平年並みが見込まれます。

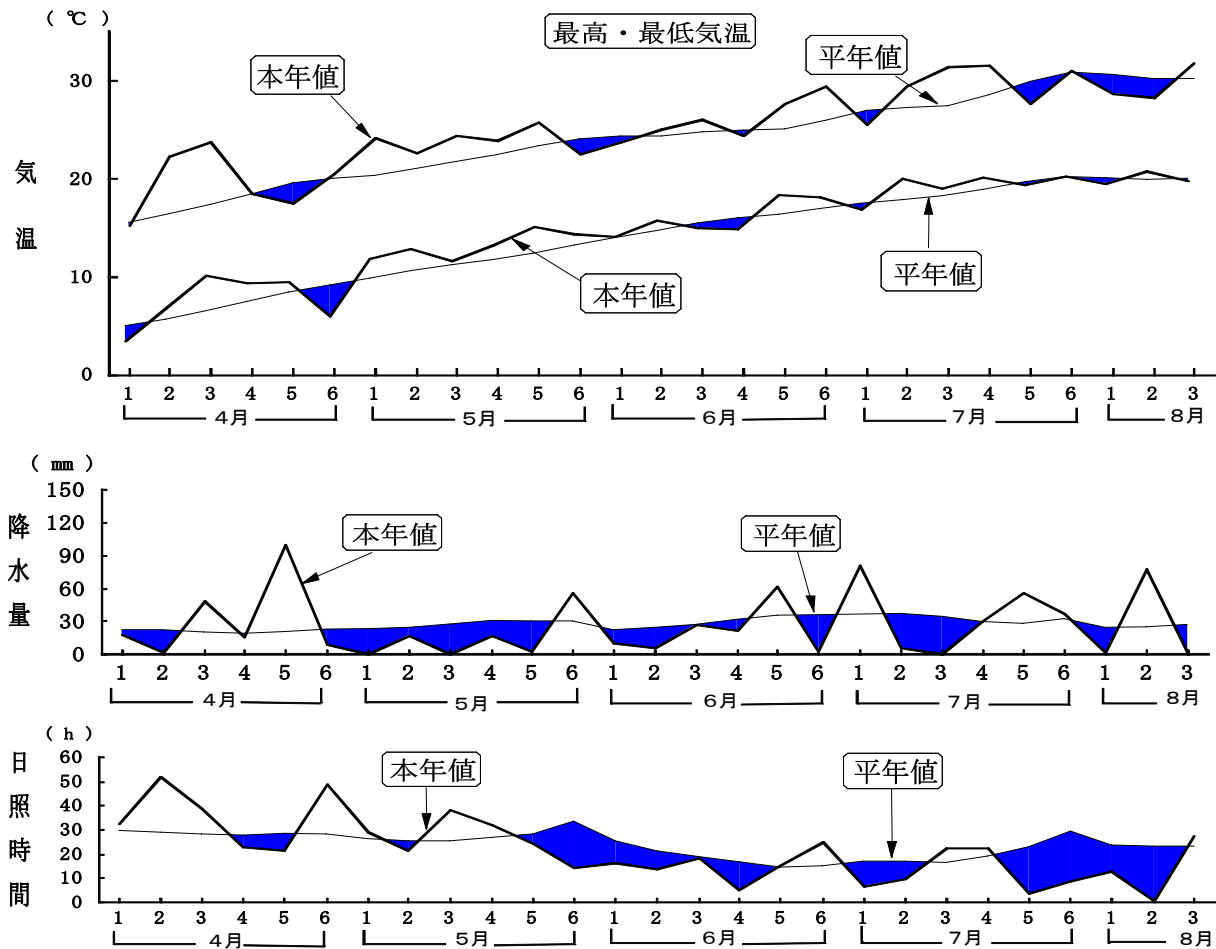
以上のことから、作柄は、「平年並み」が見込まれます。

表2 平成21年産水稻の作柄表示地帯別田植え及び出穂の状況（8月15日現在）

区分	田 植 期					出 穂 期					出穂済面積割合 %	対平年差 ポイント
	始期	最盛期	終期	最盛期の比較		始期	最盛期	終期	最盛期の比較			
				対平年	対前年				対平年	対前年		
県平均	4.30	5.6	6.13	1日早	1日早	7.29	8.5	…	1日早	並み	87	1
北部	4.29	5.3	5.11	2日早	1日早	8.1	8.4	8.14	並み	並み	97	1
中部	4.29	5.6	5.21	1日早	並み	7.29	8.3	8.15	1日早	並み	95	△ 1
南部	4.30	5.28	6.20	2日早	1日早	7.26	8.12	…	2日早	並み	61	6

注：1 田植期及び出穂期の「始期」、「最盛期」、「終期」とは、田植え及び出穂済みの面積割合がそれぞれ5%、50%、95%に達した期日です。
 2 出穂期の「終期」の欄の「…」は、8月15日現在で期日に達していないことを示しています。
 3 出穂済面積割合欄の「△」は、平年より少ないことを示します。

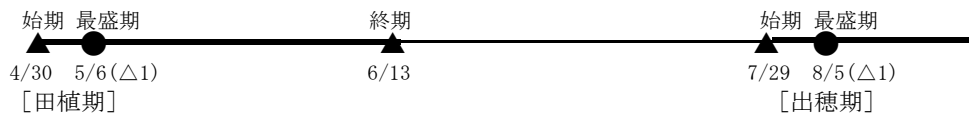
図2 平成21年産水稻作期間の半旬別気象図



宇都宮地方気象台 提供

水稻の生育ステージ

()は平年比較



【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の水稻調査の中の作柄概況調査として実施し、水稻の生育・作柄状況を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、技術指導等の農林水産行政推進のための資料とすることを目的としています。

2 調査の対象

全国の各都道府県を対象に調査を行っています。

なお、栃木県内における作柄表示地帯の区分は、次のとおりです。

作柄表示地帯	所 属 市 町 名
北 部	大田原市、那須塩原市、矢板市、さくら市、那須烏山市 那須町、那珂川町、塩谷町、高根沢町
中 部	宇都宮市、鹿沼市、日光市、真岡市 上三川町、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町、西方町
南 部	栃木市、小山市、下野市、佐野市、足利市 壬生町、都賀町、野木町、大平町、藤岡町、岩舟町

3 調査対象数

作況標本筆調査：280筆 作況基準筆調査：12筆 巡回・見積り：30市町

4 調査事項

は種期の遅速、田植期の遅速、活着の良否、草丈の長短、茎数の多少、穂数の多少、もみ数の多少等の生育の状況、登熟状況、被害状況、耕種状況。

5 調査期間

8月15日現在で水稻の生育・作柄概況を調査しました。

6 調査方法

調査は、作況標本筆、作況基準筆に対する職員による実測調査及び作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより行いました。

7 集計方法

調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより補完して取りまとめています。

8 用語の解説

- (1) 「穂数の多少」は、1㎡当りに出穂したすべての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (2) 「1穂当たりもみ数の多少」は、1穂についているすべてのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
- (3) 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりのすべてのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。

- (4) 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表しています。
- (5) 前述の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した1㎡当たり穂数等の各収量構成要素の平年値との比較です。
- (6) 作況指数とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり（予想）収量の比率です。
- (7) 10a当たり平年収量とは、水稻栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況を平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a当たり収量をいいます。

9 利用上の注意

本調査（8月15日現在）は、その後の気象が平年並みに推移するものとして作柄予測を行いました。したがって、今後の気象条件により作柄は変動することがあります。

※ この統計調査結果は、関東農政局ホームページ中の統計データに掲載しています。
【 http://www.maff.go.jp/kanto/to_jyo/tochigi/2009data/index.html 】



平成22年2月1日現在で、2010年世界農林業センサスを実施します。

調査員がお伺いしましたら、ご協力をお願いします。

農林業センサスホームページURL : <http://www.maff.go.jp/j/tokei/census/afc/>

問い合わせ先

◎本統計調査結果について

連絡先：関東農政局栃木農政事務所 統計部
生産流通消費統計課

電話：028(636)1722

FAX：028(639)4355

◎農林水産統計全般について

連絡先：関東農政局栃木農政事務所 統計部
統計企画課

電話：028(636)1721

FAX：028(633)9271